

構成要素障害影響分析 (CFIA)



CIFAがあなたのビジネスを救う

システム停止による企業経営に与える影響を最小限にとどめることは重要な課題です。IBMではお客様システムの可用性を診断するプログラムをご用意していますが、その1つが構成要素障害影響分析 (CFIA : Component Failure Impact Analysis) です。

CFIAはハードウェア、ソフトウェアなどのシステム構成要素の障害を想定し、格子分析によって業務とシステムの間係をマトリクス化しお客様業務に与える影響度合いを分析評価、影響最小化のための解決策立案をご支援するサービスです。

高可用性ソリューションの検討をお勧めいたします

- ・ システム増強などで導入当初と構成、運用方法などが変わってしまい、システムの不完全さや弱点が不明確になっている。
- ・ 連続稼働は必須だが、システムが全停止した場合の業務影響が正確には把握できていない。サービス停止による損失額の増大
障害回復手順の不備で回復作業に時間がかかり長時間ダウンなど・・・

ビジネス継続のためのコスト・バランス、システムのダウン・タイムが及ぼす影響を考え、高可用性ソリューションの検討をされませんか？

IBMがシステム可用性向上のお手伝いをいたします！

- ・ システムやネットワーク構成上の弱点が明らかになります。
- ・ 障害によるシステム全体や業務への影響範囲が明らかになります。
- ・ 障害対応体制や復旧手順および問題管理などの問題点が明らかになります。

実施要領

インタビュー・セッション形式により問題点の把握と改善策の検討をいたします。

キックオフ・ミーティング

格子分析

詳細分析

解決策の作成

活動計画の作成

実行と推進管理

お客様環境、機械の内部構造、機器接続配線にいたるまで熟知した技術員が主担当として対応。ハードウェア、ソフトウェアのみならず、導入、構築、運用に精通したエキスパートが分析。

【期間】

調査に1~2週間、セッションを3~5回 (4時間/セッション) 実施します。最終報告は2時間を予定しています。

実施内容

- バックアップ/回復機能の評価
- 適用業務への影響度合の評価
- 回復時間最小化のための改善策の検討
- 機器構成、ファイル配置の改善
- バックアップ/リカバリー・リスタート方法の改善
- 各種手順書の整備
- 運用手順・体制の確率
- 教育・訓練計画の作成

参考：

ITmedia 「[ITIL Managerの視点から：確率論を究める—交通事故とシステムダウンの関係](#)」
ブローチャー「[構成要素障害影響分析（CFIA）](#)」